

機電技術者意見交換会

(第 13 回)

実施日 : 2009 年 10 月 1 日(木)～ 2 日(金)

2009 年 10 月

(社)日本建設機械化協会 建設業部会

(社) 日本建設機械化協会
建設業部会長 坪田章

建設業部会では、部会事業活動の一環として「機電技術者意見交換会」を協会本部ならびに建設業部会会員各社のご支援とご協力のもとに、平成9年度より毎年開催しています。

今年も10月1、2日の2日間、代々木の国立オリンピック記念青少年総合センターで第13回目の意見交換会を開催しました。

開催目的は同業他社の方々と交流する機会の少ない若手・中堅の機電技術者を対象とし、①情報収集活動の場として機能させる、②機電部門活性化の一助とする、③機電技術者の地位向上の一施策として役立てる。というものです。

今年の討議テーマは「ものづくりの楽しさをどのように伝えるか?」としました。このテーマのねらいは、これからの人生において、何か動機づけになるようなことを参加者が前向きに収集し、2日間を有意義に過ごしていただくことであります。

後日、参加者の皆様から提出していただいたアンケートの結果では、討議テーマに関して良かったと評価された方は40%でした。昨年、一昨年の討議テーマ「様変わりする外部環境において機電技術者に期待される役割」の75%の値に比べると低い結果となりました。しかし、自由意見欄の内容では前向きな表現が多いと感じ取れ、何かの動機づけに役だっているのではと主催者として自画自賛しております。

また、2日目の午後の講演は東京大学大学院理工学研究科 特任教授の草加浩平先生をお招きし、「ものづくりの楽しさを織り込んだ教育」をテーマに講演をしていただきました。機電技術者として身近な内容であった事もあり、大変興味深くまた新鮮な想いを抱くことができる内容でありました。参加者のアンケートでも、「ものづくりの楽しさが本当によく伝わってきました」「この会に、エンジンの”組みばらし”の実施研修を加えてもよいのでは」という意見がありました。

草加先生にはご多忙の中、貴重なお話をさせていただき、誠にありがとうございました。この場をおかりして深く感謝の意を表します。

参加者の皆様には、その後、どのように自分の動機づけあるいは仲間の動機づけを行い、どのように変わってきているのでしょうか。はじめて会った同業の仲間を知ることだけでも貴重な時間を持てたと思いますが、その時間を次の自分の成長の糧としてぜひとも生かしていただきたいと期待します。

さて、今回の機電技術者意見交換会で発表していただいたグループ別の討議成果や参加者のアンケート結果がここにまとまりましたのでご報告させていただきます。

最後に、会員の皆様には建設業部会の活動に引き続きご理解とご支援、ご高配を賜りますようお願い申し上げます。そして、今回の意見交換会の企画から当日の運営、さらには報告書のまとめに至るまで実務を担当していただいた建設業部会のメンバー諸氏には深く感謝の意を表します。

(社)日本建設機械化協会 建設業部会
機電技術者意見交換会報告書

目 次

| | | |
|------------------------|-------|----|
| 1. 第13回機電技術者意見交換会報告 | | 1 |
| 2. グループ討議成果 | | 2 |
| 3. アンケート集計結果 | | 9 |
| 4. 資料 | | 13 |
| (1) 意見交換会実施要領およびスケジュール | | |
| (2) 参加者名簿 | | |
| (3) 実施状況写真 | | |

1. 第 13 回機電技術者意見交換会報告

2009 年 10 月

■ 背景

これまでに 12 回の機電技術者意見交換会が行われているが、参加者の感想として

「各社各人が機電職として同じ問題を抱えている」

「同業他社との交流が有意義だった」

「継続的開催を希望する」

等々の意見が多く、それを踏まえて今年度も第 13 回機電技術者意見交換会を開催した。

■ 討議テーマ

「ものづくりの楽しさをどのように伝えるか？」を各班において検討

課題の抽出・絞込み、その背景整理を行い、討議を実施した。

■ 講演

東京大学大学院工学系研究科 特任教授・草加教授による「ものづくりの楽しさを織り込んだ教育」の講演をいただいた。

■ 幹事会発表

各班の討議結果を 2 日目(10 月 2 日)の午後、建設業部会幹事参加のもと発表を行った。

■ まとめ

この意見交換会を、機電技術者の意見交換の場作りとするとともに、本活動を、

① 情報活動の場として機能させる。

② 建設業各社機電部門の活性化の一助とする。

③ 機電技術者の地位向上の一施策として役立てる。

と位置づけ、(社)日本建設機械化協会、建設業部会、各社がそれを支援するという考えで進めて行きます。

以上、まとめを添えて報告いたします。

〒105-0011 東京都港区芝公園 3-5-8
(社)日本建設機械化協会 建設業部会長 坪田 章
事務局 岡田 和夫
TEL. 03-3433-1501 FAX. 03-3432-0289

2. グループ討議成果

(第1班)

第13回 機電技術者意見交換会 2009年10月2日

テーマ
「ものづくりの楽しさを どのように伝えるのか」

メンバー 第1班

- ・岩瀬 隆 鉄建建設株式会社
- ・廣瀬 豊 清水建設株式会社
- ・余宮 正一 株式会社フジタ
- ・草刈 成直 東洋建設株式会社
- ・沼宮内克己 鹿島建設株式会社
- ・才川 欽也 株式会社間組

JCMA 建設業部会 1

・建設業のものづくりの楽しさとは？

- ・無から作り上げる達成感
- ・スケールの大きい仕事を完遂する達成感
- ・難易度の高い仕事を完遂する達成感
- ・後世に残る仕事をした達成感
- ・同じものが一つとして無い独自性表現
- × ・人間の生活に必要なインフラ整備による社会的評価
- × ・住まい、故郷を作り上げることによる社会的評価

→ 社会的評価を得られればものづくりの楽しさは伝わる

JCMA 建設業部会 2

・なぜ社会的評価が得られないのか？

- ・談合、汚職
- ・税金の無駄遣い(ダム、高速道路)
- ・自然破壊(大規模造成)
- ・危険(クレーン倒壊、労働災害)
- ・汚い、きつい、うるさい、男くさい(騒音、振動、作業服、ニッカポッカ)
- ・休みが少ない(土日祝日出勤、夜勤)
- ・従事者の犯罪率が高い(土木作業員、とび職)
- ・PR不足

JCMA 建設業部会 3

・建設業の社会的評価を向上させるには？

→ 一般の人に建設業についてもっと良く知ってもらう

- ・達成する過程を公開していく(工事現況、写真、動画)
- ・達成する手法を公開していく(タワークレーンの解体、橋梁建設)
- ・実際に作業を体験してもらう(軽作業体験、インターン)
- ・新技術、新工法の公開(遠隔操作、自動運転)
- ・芸術的近代建造物の公開(かっこいい、うつくしい)
- ・生活に役立つインフラ施設の公開(上下水道、電気、ガス、交通)
- ・知られざる施設の公開(地下河川、地震対策)
- ・あつて当たり前な施設の効果を再認識

たとえば・・・

- ・宣伝広告(コマーシャル、スポンサー)
- ・施工時の苦勞を知ってもらう(プロジェクトX)
- ・日本の建設施設の紹介(建設業版・世界の車窓から)
- ・建設工事の過程を紹介(シリーズものコマーシャル)
- ・工事中の現場の横の向こうが見えるようにする

JCMA 建設業部会 4

・建設業のものづくりの楽しさ

- → ○ ・無から作り上げる達成感
- → ○ ・スケールの大きい仕事を完遂する達成感
- → ○ ・難易度の高い仕事を完遂する達成感
- → ○ ・後世に残る仕事をした達成感
- → ○ ・同じものが一つとして無い独自性表現
- × → ◎ ・人間の生活に必要なインフラ整備による社会的評価
- × → ◎ ・住まい、故郷を作り上げることによる社会的評価

→ 社会的評価を得られ、建設業本来の「ものづくりの楽しさ」が伝わる

JCMA 建設業部会 5

(第2班)

第13回 機電技術者意見交換会 2009年10月2日

テーマ
「ものづくりの楽しさをどのように伝えるのか」

メンバー 第2班

- ・浅井 友章 日本道路㈱
- ・黒坂 正昭 ㈱NIPPO
- ・乙黒 啓介 前田道路㈱
- ・島田 拓 大成ロテック㈱
- ・平藤 雅也 鹿島道路㈱

JCMA 建設業部会 1

楽しさを伝える対象

学生・後輩社員

JCMA 建設業部会 2

道路会社の現状

- ・イメージが悪い
→3K(キツイ、汚い、危険)イメージの定着
- ・機電系新入社員が少ない
→機電系学生の大半は、自動車業界や家電製品等の業界を選択する傾向が。
道路会社は選択肢の中にはない。
→道路会社の仕事内容がわからない。
他の業界と比べるとイメージが悪い。
- ・(若手)社員の離職率が高い
→仕事の環境が悪い(時間が不規則、睡眠が十分に取れない等)。
仕事内容がキツイ。
仕事にやりがいを見付けられない。

JCMA 建設業部会 3

それに対する対策

- ・作業環境を整える
- ・仕事内容の面白さを広める
(アピールする)

JCMA 建設業部会 4

道路会社(機電技術者として)に入って良かったこと
(感動・達成感等)

目標を決め、それ以上の結果を得ることによる達成感

- ・舗装の仕上がりが(平坦性等)が目標以上であった
- ・施工機械の選定、運転技術により金額、工期を短縮出来た

仕事に対してやりがいを感じる

- ・大きなプロジェクト(空港、高速道路、ダム等)に参加出来た時
- ・今までの経験、技術を活かせる場がある時
- ・自分が携わった施工の評価が良かった時
- ・全国各地で仕事出来る
- ・新技術(3D-MC等)にいち早く触れる事が出来る
- ・新技術の開発に携われる

JCMA 建設業部会 5

今後どのようにすべきか

作業環境を整える

- ・経験、技術を得るための機会、環境を作る
 - 余裕のある人員配置 → のびのびと仕事出来る環境
 - 十分な教育の場を与える → サポート体制の構築
 - 技術の伝承
- ・社員の評価をオープンにする(能力評価)
 - 人材育成のためのアドバイス → 社員の個性を把握し、伸ばす
 - 競争心を持たせる → 向上心を刺激し、やる気を持たせる

JCMA 建設業部会 6

(第2班)

今後どのようにすべきか

仕事内容の面白さを広める(アピールする)

- ・ 情報交換の場を設ける
 - 同業他社、社内の他部署との情報意見交換会への参加
 - インターンシップの採用 → 学生に仕事内容を知ってもらう
- ・ 情報の公開(成功例、失敗例等)
 - 技術、経験の共有化 → 負担の軽減
 - 産学連携の推進(共同研究等) → 新技術の開発
 - 現場見学会の実施 → イメージアップ
 - HP等で現場を公開 → 一般の方に仕事内容を知ってもらう
 - 記念撮影など達成感を盛り上げる演出
 - 地元住民との交流 → イメージアップ

(第3班)

第13回 機電技術者意見交換会 2009年10月2日

テーマ
「ものづくりの楽しさをどのように伝えるのか」

メンバー 第3班

| | |
|-------------|------------|
| ・下山田 俊一 | 前田建設工業株式会社 |
| ・船橋 直樹 | 三井住友建設株式会社 |
| ・松本 歩(リーダー) | 五洋建設株式会社 |
| ・曾根 大輔(発表者) | 株式会社大林組 |
| ・田浦 義真 | 株式会社奥村組 |
| ・小林 貞夫 | 東急建設株式会社 |

JCMA 建設業部会 1

伝えたいこと(仕事・感動・達成感)

```

    graph TD
      A[個々が考えてきた仕事の楽しさ] --> B[グループで考えた仕事の楽しさ]
      B --> C[仕事を楽しむために何が必要か]
      C --> D[どうして仕事を楽しむ必要があるのか]
      D --> E[仕事の楽しさを誰に伝えるか]
      E --> F[仕事の楽しみの伝え方]
    
```

JCMA 建設業部会 2

「ものづくりの楽しさ」として伝えたいこと

管中混合固化処理工法の開発

模型実験 → 実規模実験

実施工(東京国際空港D滑走路建設外工事)

JCMA 建設業部会 3

「ものづくりの楽しさ」として伝えたいこと

自分が持つ能力を最大限引き出し、
発揮することの苦しさ。

↓

自分の仕事に責任と誇りが持てること。

JCMA 建設業部会 4

「ものづくりの楽しさ」として伝えたいこと

- ・自分で作ったものが永久に残る。
- ・いつでも見に行くことができる。
- ・形に残るものを作るのでやりがいがある。
- ・同じ現場はひとつとして無いので常に新鮮な気持ちで仕事に当たれる。

JCMA 建設業部会 5

「ものづくりの楽しさ」として伝えたいこと

ゼロから完成までのプロセス

- ・ 設計、計画 (どんなものを、どのように、創意工夫して)
- ・ 施工 (納期を守り、いいものを、困難の克服)
- ・ 完成 (できた時の達成感、自己満足、他からの評価)

JCMA 建設業部会 6

(第3班)

「ものづくりの楽しさ」として伝えたいこと

- ・トンネルの貫通など工事が完成した時に味わえる。
(過程が大変な工事ほど)
- ・他の職員、業者と協力し合って完成した時

JCOMA 建設業部会 7

伝えたいこと(仕事・感動・達成感)

グループで考えた仕事の楽しさ

- ・ひとつの仕事を自分でやり遂げる
- ・しんどい仕事ほど達成感は大い
- ・自分の好きなように仕事ができる(機電技術者は現場に1人)
- ・機械、電気がないと現場が動かない(誇りを持つ)
- ・既成概念にとらわれず自分で考える(工夫ができる)

JCOMA 建設業部会 8

伝えたいこと(仕事・感動・達成感)

仕事を楽しむために何が必要か

- ・人(人員の確保)
- ・技術
- ・金(利益を上げる)
- ・覚悟(現場の中に達成感を見出す)
- ・時間(効率化)

JCOMA 建設業部会 9

伝えたいこと(仕事・感動・達成感)

建設業の現状は厳しい

現場での工夫(効率化)が必要
機電技術者の役割が大きい
体だけでなく脳みそでも汗をかく

JCOMA 建設業部会 10

どのように伝えるのか

誰に伝えるか

- ・若手社員に楽しさを伝える(建設業を続けてもらう)
- ・学生に楽しさを伝える(建設業に来てもらう)

仕事の楽しさの伝え方

- 人 → 若手・中堅をペアで配属(現状では厳しいが)
- 人・技術 → 機電技術者のネットワークづくり(社内外)
- 覚悟 → 即戦力であることを認識させる(ある程度の負荷を与える)
- 人・時間 → インターンシップを活用する
- 技術 → 機械化協会が見学会、展示会等を企画開催する

JCOMA 建設業部会 11

伝えたいこと(仕事・感動・達成感)

**「仕事を楽しさ」を伝えることが
出来る会社が生き残れる**

JCOMA 建設業部会 12

(第4班)

第13回 機電技術者意見交換会 2009年10月2日

テーマ
「ものづくりの楽しさをどのように伝えるのか」

メンバー 第4班

- ・今村 貴彦 佐藤工業（株）
- ・飯田 宏 東亜建設工業（株）
- ・内藤 陽 （株）竹中工務店
- ・廣富 聡 大成建設（株）
- ・寺井 昌栄 （株）熊谷組
- ・森下 登功 西松建設（株）

JCMA 建設業部会 1

1. 現状分析 4班

“ものづくりの楽しみ”の前に、現状分析を行った。

「機電屋の現状」は？

- ・現場のサポート役。
サポート役ではあるが、プライドを持ってやっている。
- ・ものづくりを行う上で欠かせない存在、役割と自負し
資格の取得をはじめ、スキルアップを図っている。
- ・愚痴を言いながらも、みな境遇を楽しんでいる。

後継者不足、夢のある若手の減少と各社同ような境遇にある。

JCMA 建設業部会 2

2. 取り巻く環境 4班

現在の社会情勢

- 公共工事削減
- ダム計画中止
- 箱ものはすべて無駄使い
- 発展途上地域のインフラ整備
- 地球温暖化対策

まだ必要な工事、果たすべき役割は多い！！

JCMA 建設業部会 3

3. 目的 4班

- 後継者 育成・確保
興味を持ってもらう、きっかけづくり
- 業界のイメージアップ
社会基盤整備に対する貢献度
- 有要性のアピール
公共工事は悪じゃない
水の大切さ

JCMA 建設業部会 4

4. 伝えたいこと（仕事・感動・達成感） 4班

- ・造り上げたときの、達成感・満足感・充実感
- ・想いを形にできる喜び
- ・周りから評価される喜び
- ・多くの人と協力してものを作り上げる喜び
- ・自己成長の確認
- ・機電系社員特有の楽しさ喜び

JCMA 建設業部会 5

4. 伝えたいこと（仕事・感動・達成感） 4班

機電系社員特有の楽しさ喜びとは？

- ① 新技術の開発に触れられる。
新技術の開発は機械の開発であることが多い。
- ② 工事を始める準備における存在価値を感じられる。
機電系社員がいないと、現場が始まらない。
- ③ 機電関連業務における責任が大きいため、
業界内においても、若くして一人前になれる。
- ④ 土木、建築社員は機電業務をこなせないが、
機電系社員は、土木・建築業務をこなせる。
- ⑤ 少人数ゆえの、仲間意識・協調性がある。

JCMA 建設業部会 6

(第4班)

5. どのように伝えるのか

4班

興味を引くために、視覚・聴覚に訴えるプレゼン方法



- ① 現場見学、体験学習
- ② 「黒部の太陽」のような映画
- ③ 機械化協会でのイメージアップVTRのネット配信
- ④ 機電屋を主人公としたドラマ制作
- ⑤ 機械化協会主催 機電屋CMコンテスト

JCMA 建設業部会 7

6. 今後の展開

4班

- ① 「月刊 機電屋」の発行
- ② 「ザ・機電屋」
各社でがんばる機電屋の紹介
リクルート活動で活用
- ③ 「機械化協会HPにて機電屋の活動紹介」
- ④ 「意見交流会の定期的開催」
- ⑤ 「夢の建設機械展の開催」
夢のある建設機械の提案
(例) 月に建築物をつくる機械

8

6. まとめ

4班

魅力・楽しさを伝える、我々が魅力的でなければならない！
我々の姿を見て、後輩が育ち、新社員が来ることを自覚して
各個人の魅力・スキルアップ を図っていきます。



・情熱
・熱意
・熱さ心

私たちが先頭を走ります！

9

3. アンケート集計結果

1. テーマ、進め方、発表方法について

| | 適当・良かった | まあまあであった | 不満・改善を要する |
|-------------|---------|----------|-----------|
| (1)テーマに関して | 9 | 10 | 4 |
| (2)進め方に関して | 14 | 9 | 0 |
| (3)発表方法に関して | 17 | 6 | 0 |

| | |
|--|---|
| (4)次回討議したいテーマは？ | 技術を伝承するために必要なもの。 |
| | 「建設会社における、機電技術者のなすべきこと」「機電技術者として、建設業界をどうけん引するか」などでも良いかと思えます。 |
| | 機電の業務に関わる職員の集まりなので、例年のように機電職の存在意義や将来について、もっとストレートに議論するお題を出すべきではないか。 |
| | 「十年後の建設業について」等 将来的にどうあるべきかを討議するのも面白かもしれない。 |
| | 今後の建設業における機電系社員の果たす役割(土木・建築系社員との住み分け、社員人数、組織規模など、おそらく以前実施しているはずですが改めて)。最近、若手機電系社員は分け隔てなく土木建築業務に従事しているが、補佐業務や手元作業が多く、本業がおろそかになりつつある。本来の機電業務とは何か？土木・建築系社員との住み分けはどうなっているのか？機電系社員の価値を見出すためには？適当な機電組織と社員人数は？といったようなもの。 |
| | 機電技術者の喜びについて。 |
| | 『技術の伝承をどう受け継ぐか？』 |
| | 同テーマを2年続けて、1年後の社会環境においてどのように意見が変わっているのかもしくは過去開催のテーマを再度討議し、意見の変化を比較するのもおもしろいのではないか。 |
| | 機電技術者として事業所の経営にどう関わられるか。 |
| | 機電技術者として社会の変化(環境対策、公共工事の削減、情報化など)にどのように対応していくか。今後どのような技術を望むか(役立つ、開発される、もしくは開発すればいいか)。 |
| | 今回と同じ。 |
| | 「今後の機電技術者のあるべき姿について」について討議したいです。今回のテーマや各班の報告からも基本に戻ることにしている意見が多かったように感じました。 |
| | 現場で効果のあった創意工夫(コスト削減、能率UP等)。 |
| | 暗くならないテーマがいいと思う。 |
| | 現場見学会をかねて、現場を見前に設計図をもとに仮設レイアウトを考え、その後現場視察・検証会などを行ってみては。 |
| 討議するのではなく、「CMを作る」とか「割りばしだけでどれだけ高いタワーが作れるか」といった体験型の形式。「富士山山頂に15階建ビルと建てて欲しいと依頼を受けての提案資料の作成」「ダム建設中止」でゆれる地域へ出向いての現地取材など。建設業の第一線で活躍している我々がワクワクする内容として欲しい。 | |
| 今回と同じでいいと思います。もしくはもう少し絞って機電技術者として伝えたいことをもっと掘り下げて話してもいいのかなと思えました。後は前向きになれる話題として10年後もしくは遠い将来に必要なとされる機械技術は何かなど。 | |
| 今回を踏まえて同じ「ものづくりの楽しさを伝えるには？」をテーマにし、誰に伝えるかをもう少し絞込み討議する。例えば大学生限定、もしくは1班は大学生、2班は子供、3班は後輩、等々。 | |
| 建設業における華やかさ。建設業に対して人を引き付けるためには。 | |
| その他・意見 | テーマが漠然としていて、この方向性で議論を進めてよいのかどうかグループ内で悩むことがあった。 |
| | 「ものづくりの楽しさの伝えかた」についてはテーマとして大きすぎて、議論が難しかった。しかし、時間もほどほどで皆のざっばらんな意見を聞くことができ良かったとも思う。 |
| | テーマが抽象的で結論が出にくかった。解決策なども現実的でなかったように感じました。若手技術者には目の前にあるもうすこし現実的な議題でも良かったと思います。また、オブザーバの方を交えた討議(若手の意見を聞いてもらう)的なものがあったと思います。 |
| | 『ものづくりの楽しさをどのように伝えるか？』というテーマが幅広くグループ討議で意見をまとめるまでに苦労しました。また、発表では各班の個性が出ていて職種に違いがあるけれど同じ機電技術者の思想は共通のものがあると感じました。 |
| | 個々の考え方によっていろいろな討議が期待できるテーマで良かった。 |
| | 自己PRに割く時間が多いと思いました。 |
| | テーマが非常に難しかった。道路会社の共通の意見として、普段仕事をしていて、ものづくりをしているというような考えがない為である。ものづくりをしているというように考えていない人間にとって、ものづくりの楽しさを～ というのは非常にやりにくかったと思う。 |
| | 私自身が半人前であり伝えられる側だからなのかもしれませんが、ものづくりの楽しさの伝え方というテーマが意識しづらいものでした。もう少し絞ったテーマにしていただけたら良かったです。 |
| | 最初は、難しいテーマだと思ったが、話し合っているうちに結構面白くなった。もう少し他のグループとも交流を持ちたかった。 |
| | 暗い方向へ話が進みがちであるのを修正しながら、前向きな意見が出るような方向へ持っていくのが大変だった。リーダーの選定の際には、よく話をする人を選びやすくなるが、事前に作文を書かせて、誰がどのような意見を持っているかを把握して、グループ分けをしている方が、協会が意図している意見交換会の趣旨に沿った議論が進められるような感じた。何かテーマに沿った本を読んでくるように自己紹介とともに課題を出した方が良かったように感じた。 |
| | テーマが漠然としすぎてははじめはとまどったが、逆にいろいろ意見(関係のない雑談も含め)が出たのでよかったと思う。 |
| | テーマが漠然としていた。 |
| | 昔からのものづくりが好きだったのだと、改めて感じた。自己を見直すきっかけにもなり良かった。 |
| | 発表する資料をまとめることに意識が行ってしまい、「意見交換会」ではなく、「プレゼン大会」のような形式になっている気がする。初めて顔を合わせるメンバーで、しかも一泊二日で資料をまとめて上げて発表するのは非常に無理があるように感じました。パソコンを持参するのは持ち運びが大変だけでなく、防犯上も問題かと思うので、事務局で用意していただきたい。 |
| | 業界においては暗い話題が多い中で今回のテーマ選択は前向きになれるテーマであった。 |

2. 参加者、場所、期間について

| | 適当・良かった | まあまあであった | 不満・改善を要する |
|------------|---|----------|-----------|
| (1)参加者に関して | 19 | 4 | 0 |
| (2)場所に関して | 19 | 4 | 0 |
| (3)期間に関して | 17 | 3 | 3 |
| その他・意見 | <p>場所も利便性がよく期間も適当でした。参加者の経験年数がある程度(例えば10~15年など)決めても良かったと思います。</p> <p>道路会社の参加者を増加して頂きたい。また、期間はもう少し早い時期で行って頂きたいです。</p> <p>参加者を募る方式なので仕方の無いことであるが、班のメンバーの年齢が近すぎ、意見がほぼ同様であった。</p> <p>同業他社だけでなく、他業種の方と話が出来たのは貴重だった。期間に関しても特に不満を感じなかった。不満と言えば、宿泊場所に歯ブラシとティッシュが無いのが不満だった。</p> <p>コミュニケーションを取るためには十分な長さだと思いますが、全体的な長さはもう少し短い方が良いと思います。</p> <p>全国労働衛生週間にぶつかったのはどうかと思う。</p> <p>今回のグループになって、良かったと感じた。入社1年目の方も居て、いろいろな面で新鮮であった。</p> <p>懇親会は立食形式ではなく、座って話ができる形式の方がじっくり話ができると思う。業務のことを考えなければ、2泊3日くらいあってもよいと思う。。。飲み屋が少ないのが不満でした。</p> <p>班員は新入社員から40歳近くと少し幅がありましたが、それゆえにそれぞれの年代において日頃感じていることなどをコミュニケーションを取る中から感じとることができて刺激を受けることができました。</p> | | |

3. 参加して

| | 有意義であった | まあまあであった | 不満・改善を要する |
|------------|--|----------|-----------|
| (1)感想 | 19 | 4 | 0 |
| (2)上記の理由、等 | <p>他社の同職種の人と話ができて、様々な(厳しい)環境でも頑張っているのが感じられ、励みになった。</p> <p>同業他社、同世代、且つ機電担当の人々と話す機会がこれまでありませんでした。各社で同じような仕事をしている同世代が、明るく前向きに、懸命に仕事に取り組んでいることに、とても刺激を受けました。やはり、同じようなことで悩んでいることを知りましたが、一方では同じような解決手法ではなく、工夫や独創性、新しい切り口が必要であることも改めて感じました。できれば、また今回知り合った仲間と、一杯やりながら、いろいろな話をしてみたいと思います。</p> <p>他社の人とざつぱらんに意見を交換できたことに感動した。</p> <p>日ごろ接する機会が少ない同業他社の機電職と討議する機会は(今後の建設会社機電職を考える上で)有意義であった。</p> <p>同年代の同じ境遇に置かれている技術者との交流は非常に刺激を受け有意義でした。</p> <p>他社の方々との交流は刺激になった。</p> <p>班体制の時間は有意義でありとても良かったと思います。もう少しグループ間同士の交流や討議がでいたらと思いました。</p> <p>同業他社の機電技術者の意見を聞くことができて良かった。</p> <p>自分のように機械職として工場で行っていると、同業他社の方々とも話す機会が無いので、意見交換会に参加し情報を交換を出来たことは有意義でした。</p> <p>他会社の方と交流をはかれたのは非常に良かったように思う。出来れば、入社四年目の現在ではなく、もう少し経験を積んでから参加したかった。</p> <p>プレゼンテーションをする機会などが普段あまり無いので、よい勉強になりました。</p> <p>同業他社と知り合えたり、話ができること。</p> <p>他のゼネコンの技術者と話合う機会はまずあり得ないので有意義だと思います。</p> <p>明るい話題のない建設業界にいなから、同じ機電職員の前向きな意見を聞き、いい刺激になった。</p> <p>他社にもがんばっている機電職員がいることを知ったことは大変意義があった。</p> <p>他社同世代の人がどのような業務、考えをもって仕事に向き合っているか感じられよかった。自分の性格かもしれないが他グループとの接点が少なく、何か途中でグループ間での意見交換等あればよかった。</p> <p>他社の同年代の機電技術員と交流することがいままで、なかったので今回出席できてよかった。</p> <p>同世代の機電屋でなかなか集まって話す機会が取れないので、士気を高めるという点で有意義な2日間でした。</p> <p>普段考えている問題を、自分一人のものと考えてが多かった。みんなの考えに触れることができ、今の業界を取り巻く情勢や色々な問題を乗り越えられると思えるようになった。</p> <p>せっかくの機会なので、現在注目されている現場見学などがカリキュラムにあればよりよかったかと思う。他のグループの人と交流する機会がほとんどないのが残念であった。グループ対抗だけでなく、今回の参加者みなので取り組む作業があればよりよかったかと思う。第13期生として、集合写真を取ればよかった。次期から最後は記念撮影をしてはどうでしょうか？</p> <p>自社内でも同年代で同じ立場の人とコミュニケーションをとる機会は少なく、今回非常に刺激を受けました。仕事に対する考え方、モチベーションの保ち方など様々な話題が上がり自分の考え方を再考するいい機会を持てたと思います。</p> <p>希少な人脈を広げることができた。</p> <p>他社の機電屋の方々と話できたこと、経験豊富な人々からのアドバイスして頂きこれからの参考になりました。</p> | | |

4. 講演会について

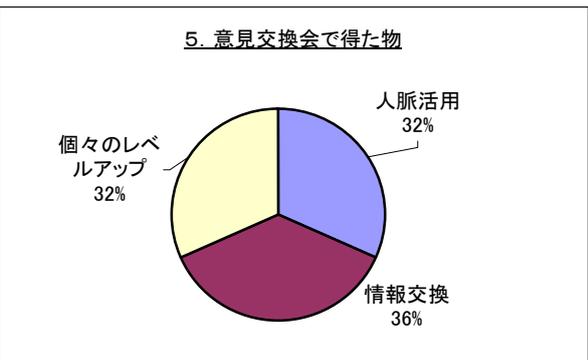
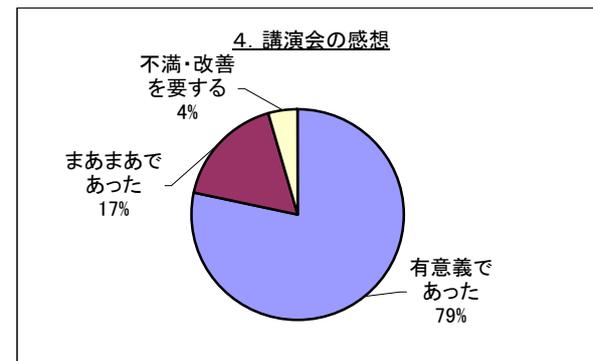
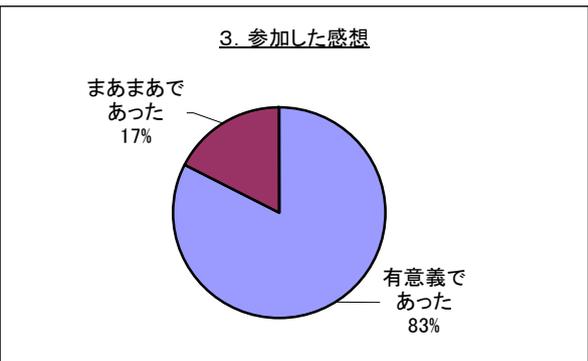
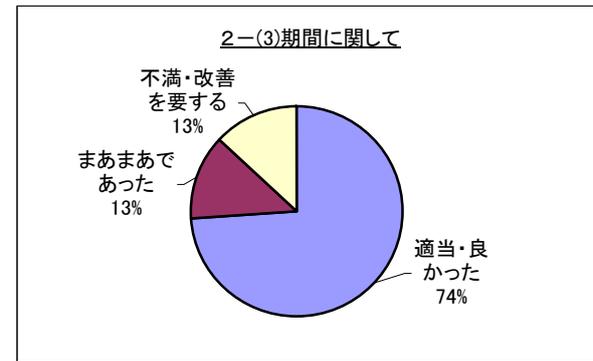
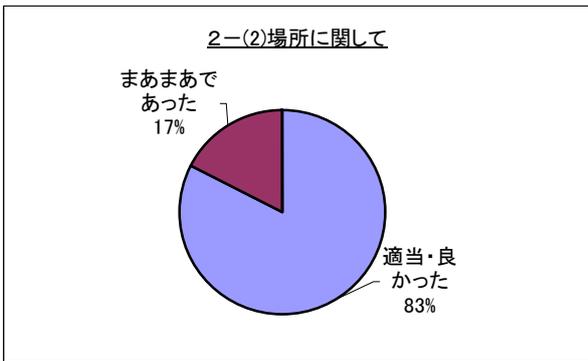
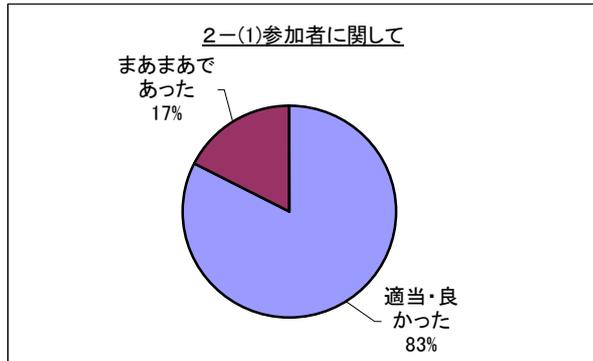
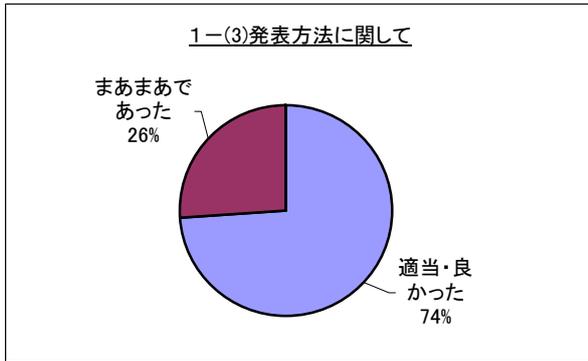
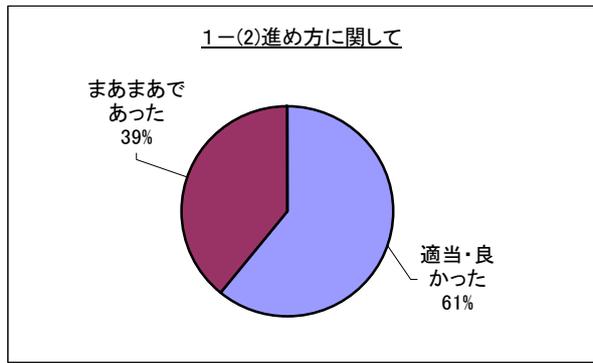
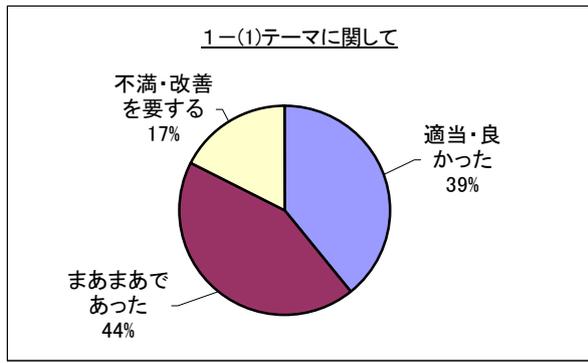
| | 有意義であった | まあまあであった | 不満・改善を要する |
|--------|---|----------|-----------|
| 感想・希望等 | 18 | 4 | 1 |
| | <p>建設業、特に現場では研究機関等の講演を聴講する機会が無いと思うので有意義でした。</p> <p>草加教授の公演はものづくりの楽しさが本当によく伝わってきました。ものづくり=人づくりということで自分達以外の人々にこんな感じで伝えていけたらいいのと思いました。もっと多くの人たちにこの公演を聞いて頂きたいと思いました。</p> <p>テーマに合った講演内容で良かったと思う。今後も継続して欲しい。</p> <p>非常に面白い内容だった。個人的にはもう少し時間が長ければ良かった。</p> <p>学生達が「ものづくりの楽しさ」を身をもって学んでいるところが新鮮であった。</p> <p>講演会を聞く機会があまりなく、有意義であった。内容も今回のテーマに即しておりよかった。</p> <p>大変ためになる講演でした。できればエンジン組・パリンなどの実施講習で1日追加しても面白い会になるのでは。</p> <p>特に惹かれるものがなかった。</p> <p>内容は非常におもしろく、テーマに合致した講演会であったと思います。</p> | | |

5. 今回の意見交換会から得たものを(複数回答可)

| | 人脈活用 | 情報交換 | 個々のレベルアップ |
|------------------|--|------|-----------|
| どのように活用できると思いますか | 13 | 15 | 13 |
| その他・意見 | <p>今までにこのような交流が無く仕事をしてきましたが機電技術者がこんな身近にいることを得ることができました。今後のステップとしてまず同業他社の皆さんと新技術の意見交換等をしていきたいです。</p> <p>業務内容が異なる人の意見を聞いて、改めて仕事に対する取り組み方を考えさせられた。</p> <p>「ものづくりの楽しさを伝える為にはどうすれば良いか」二日間考え、発表のPPTをまとめましたが、イマイチ納得出来るような内容にはならなかった。各社の部長さん方の話の中で、二日間考えてきて導き出すことの出来なかった「これだ！」という話が出てきた。「楽しさを伝えるには、自分が楽しめばいい」。モヤモヤ感を払拭することが出来てよかった。</p> <p>人脈や他のゼネコンとの今後のつながりなどは1回限りの会議では難しいのではないかと思います(先輩の意見などからも)。それよりも自分自身に刺激を受けるものが大きいのではないかと思います。</p> <p>この業界にいる限り、いつか一緒に仕事をすると来るかも。。。各社で得意分野が異なるので、お互いになり技術の情報を交換できれば。。。。</p> <p>人脈活用としては、なかなか微妙な世代でもあり難しいと思う。</p> <p>同業他社の同年代の人の考え方、取組み方を知ることで、自分の励みになりました。</p> | | |

6. その他意見

| |
|--|
| 社内に同年代の機電職員は少ないので、同年代の機電職員が、どのような思いで仕事に向かっているか理解でき、非常に勉強になった。特に感じたことは、皆、機電の仕事を楽しんでいるように感じた。一方で、建設業の将来に不安を感じていることも同様であった。 |
| 今後も継続的に続けてほしい。また一度顔を合わせたメンバーとの再会を望みます。 |
| 他社技術者との交流は、情報交換や人脈形成の面より、業界全体の動向や技術レベル向上の刺激といった面で有効だと感じました。経済面からも現在の規模以上の開催は難しいと思いますが、出来る限り継続して開催して頂きたいと願っております。 |
| 自己紹介をするのは賛成です。ただ、事前にPPTファイルを提出もしくは当日受付時に提出することによってバタバタしなかったかなと思います。班編制に不満です。同じ建設業の中でゼネコンと舗装会社を分ける必要があるのか？ならばゼネコンだけ集めて開催すれば良いのでは？建設業界の機電技術者としての意見交換会というのであれば、ゼネコンと舗装という線引きをしない方が良いと思う。普段、交流の難しい方とも討議をできる場にする必要があると思う。 |
| 遠方から来る方もいるので午後から開始でも良いと思いました。(建機メーカーなどの)新技術、新施工方法の紹介や検討などもついでに行うのはどうでしょうか？ |
| 子供のことを親が指導することと同様に、学生、若い職員に何を伝えるのかという姿勢であれば、おのずと良い案が出てくるものだと考えます。今後も継続して教育指導宜しくお願いします。 |
| 出来れば継続的に会議が主催され参加できれば良いと思いますが、中堅クラスの我々がこのような会議に頻繁に参加するのは難しいと思います。しかし、1回限りの会議でも他の会社の方々と触れあうことは日々の業務においても非常に刺激を受け活力を得ました。今後もこの会議を出来るだけ続けていき、よりすばらしい内容の会議にしてもらえるよう協会には望みます。 |
| 今回初めてこの意見交換会に参加させて頂き、会社は異なるが同じ機電技術者達の熱い心を知って大変感動しました。明るい話題のないこの業界に、機電技術者の手でぱっと花を咲かせられるよう努力していきたいと思います。今までの意見交換会は、10年目以上の中堅社員がメインでしたが、もっと年齢層を広げたら面白いと思います。 |
| 部長、幹事の方々が前向きな議論へと進むように進行していただいたおかげで、暗い気分で帰ることにならずに済んだと思います。次回も開催するのであれば、初めの動機付けの話は是非ともやっていただきたいです。その他、上記にある開催までの準備または課題によって、意見交換会の進み方が変わるように感じました。 |
| 久しぶりに自分の意識がアップしたように感じた。ありがとうございました。 |
| 1日開催でも構わないので今回のような交流会が年数回開催されることを希望します。 |
| 今回の意見交換会は自分にとって有意義なものでした。今後の展開としまして、現場見学をしてはいかがでしょうか。また、グループによっては有意義ではなかった人もいたのではないのでしょうか。 |
| これからも今回のような集まりを続けていってください。 |



4. 資料

- (1) 意見交換会実施要領およびスケジュール
- (2) 参加者名簿
- (3) 実施状況写真

「第 13 回機電技術者意見交換会」実施要領

(社) 日本建設機械化協会
建設業部会 部会長 坪田 章

1. 背景

これまでに 12 回の機電技術者意見交換会が行われているが、参加者の感想として
「各社各人が機電職として同じ問題を抱えている」
「同業他社との交流が有意義だった」
「継続的開催を希望する」
等々の意見が多く、それを踏まえて本年も意見交換の場を設定した。

2. 目的

- ① 情報活動の場として機能させる。
- ② 建設業各社機電部門の活性化の一助とする。
- ③ 機電技術者の地位向上の一施策として役立てる。

3. 討議テーマ

「ものづくりの楽しさをどのように伝えるか？」を各班において検討
課題の抽出・絞り込み、その背景整理を行い、討議を実施した。

4. 実施要領

- ① 期 日： 10 月 1 日(木)～ 10 月 2 日(金) (1 泊 2 日)
- ② 場 所： 国立オリンピック記念青少年総合センター
- ③ 集 合 時 間： 8 時 30 分
- ④ 集 合 場 所： センター棟 3 階 304 号室
- ⑤ 宿 泊 場 所： 同上宿泊施設を利用
- ⑥ 意 見 交 換： 各人に参加者の一覧表（班割り表）を事前に連絡致します。
リーダー、(サブリーダー、書記等)を決めて討議します。
意見交換は、自由な手法・発想で実施します。
- ⑦ 持参品： 筆記用具

5. 成果発表

各班のまとめを 10 月 2 日の午後に、建設業部会幹事の参加のもとに発表する。
発表時間は各班 15 分程度とする。

6. 参加費用： 15,000 円 (当日徴収)

(2)参加者名簿

機電技術者意見交換会参加申込者

| 班 | 会議室NO | 宿泊 | 氏名 | 所属 | 年齢 | 勤務年数 |
|---|----------------------|-----|--------|--------------------------------|----|------|
| 1 | 1日:セ-301 2日:セ-406 | 700 | 岩瀬 隆 | 鉄建建設(株) 東北支店 大牛内作業所 | 37 | 12年 |
| | | 701 | 廣瀬 豊 | 清水建設(株) 生産技術部 機械技術部 | 37 | 13年 |
| | | 702 | 余宮正一 | (株)フジタ 大阪支店 大手筋シールド作業所 | 37 | 14年 |
| | | 703 | 草刈成直 | 東洋建設(株) 土木本部 機械部 | 33 | 9年 |
| | | 704 | 沼宮内克巳 | 鹿島建設(株) 機械部 | 31 | 13年 |
| | | 705 | 才川欽也 | (株)間組 北陸支店 東電柏崎出張所 | 27 | 2年 |
| 2 | 1日:セ-302 2日:セ-407 | 706 | 浅井友章 | 日本道路(株) 中部支店 工事部 機械課 | 33 | 14年 |
| | | 707 | 黒坂正昭 | (株)NIPPO 研究開発本部 技術開発部 技術開発G | 31 | 11年 |
| | | 708 | 乙黒啓介 | 前田道路(株) 朝霞合材工場 | 30 | 8年 |
| | | 709 | 平藤雅也 | 鹿島道路(株) 機械部 | 28 | 3年 |
| | | 710 | 島田 拓 | 大成ロテック(株) 生産技術本部 機械部 機械技術G | 28 | 5年 |
| 3 | 1日:セ-303 2日:セ-408 | 711 | 下山田 俊一 | 前田建設工業(株) 中部支店 | 39 | 15年 |
| | | 712 | 船橋直樹 | 三井住友建設(株) 人事部長付 SMCテック出向 | 39 | 14年 |
| | | 713 | 松本 歩 | 五洋建設(株) 土木本部 機械部 | 38 | 13年 |
| | | 714 | 曾根大輔 | (株)大林組 東京本社 機械部 技術開発課 | 37 | 12年 |
| | | 715 | 田浦義真 | (株)奥村組 東日本支社 機械部 | 37 | 13年 |
| | | 716 | 小林貞夫 | 東急建設(株) 土木総本部 機械技術部 機械統括G | 36 | 18年 |
| 4 | 1日:セ-305 2日:セ-410 | 717 | 今村貴彦 | 佐藤工業(株) 土木事業本部 機電部 | 39 | 15年 |
| | | 718 | 飯田 宏 | 東亜建設工業(株) 土木事業本部 機電部 | 38 | 12年 |
| | | 719 | 内藤 陽 | (株)竹中工務店 西日本機材センター 施工G | 34 | 11年 |
| | | 720 | 廣富 聡 | 大成建設(株) 土木本部 機械部 機械技術室 | 34 | |
| | | 721 | 寺井昌栄 | (株)熊谷組 大山ダム工事所 機電課 | 32 | 10年 |
| | | 722 | 森下登功 | 西松建設(株) 平塚製作所 | 24 | 0年 |

注) (社)日本建設機械化協会建設業部会は、会員相互の親睦を遂行するにあたり、個人の権利と利益を守ることの重要性を認識し、個人情報の保護に関する法律に基づいて、個人情報の保護に努めています。

本名簿の利用は、第13回機電技術者意見交換会および参加者の相互交流のみに限定します。

(3)実施状況写真

①開会、オリエンテーション



②自己紹介



③グループ討議



④講演



⑤成果発表および討議

第1班



第2班



第3班



第4班



質疑



⑥閉会挨拶



⑦懇親会



(社) 日本建設機械化協会 建設業部会
平成 21 年度 第 13 回機電技術者意見交換会

WG メンバー

| | | |
|--------------|-------|----------------|
| 幹事長 | 鶴岡 松生 | : 鹿島建設(株) |
| 副幹事長 | 舘岡 潤仁 | : (株)間組 |
| 企画・協力 部会長 | 坪田 章 | : (株)竹中工務店 |
| 副幹事長 | 伴 康夫 | : 鹿島道路(株) |
| 副幹事長 | 泉 国彦 | : 三井住友建設(株) |
| 委 員 | 武石 学 | : (株)間組 |
| | 岡田 和夫 | : (社)日本建設機械化協会 |